

特別展



蒼

原

会

の

画

家

を

中

心

に

大

正

・

昭

和

の

水

彩

画

1995年8月8日(火)―9月24日(日)

■午前9時―午後5時(入館は4時30分まで)

渋谷区立松濤美術館



明治期に西洋より導入された日本の水彩画は、明治の後半に大きな隆盛期を迎えました。明治39年、日本水彩画研究所を開設した大下藤次郎の門下からも萬鉄五郎など多くの水彩画をてがける画家が輩出しました。しかし、大正期にはいと、水彩画はいわゆる水彩画らしきにとらわれて革新性を失い、更に、油絵におかれて、以前ほど振るわなくなりました。

このような水彩画低迷の状況を打ち破らんとして結成されたのが蒼原会です。大正11年(1922年)に、中西利雄、小山良修、富田通雄の3名が東京で水彩画の研究会をつくり、これが後の蒼原会となりました。彼らは全国に同志を募り、新たな水彩画の革新と普及に努めたのでした。なかでも中西利雄はそれまでの透明水彩に加えて、グワッシュを併用したりして、油絵に負けない強い効果の近代的な水彩画を生み出し、水彩画界に刺激を与えました。

大下の日本水彩画研究所の精神を受け継いだ蒼原会は、昭和初期から15～16年頃までの活動が最盛期でした。活発に展覧会を開催し、機関誌として『蒼原』や『新興水彩』を発刊しました。更に、地方に多くの支部を設け、各地で水彩画の講習会を開催しました。それらは札幌、仙台、岐阜、尾道、呉、熊本など全国に及び、各地で多くの水彩画家を輩出させました。

本展はこれまで、まとまって展示されることのなかった蒼原会の画家にはじめて焦点をあて、未紹介の地方作家の作品をも併せて紹介し、蒼原会活動の全貌を捉えます。更に、蒼原会に連なる、日本水彩画研究所、日本水彩画会、水彩連盟の作品も網羅して、それらとは一線を画した水彩画を専門としない大正、昭和の代表的画家の水彩画の作品と対比させることによって、蒼原会運動の位置を見極め、その意義を再考するものです。

明治とは異なる大正、昭和の代表的な水彩画の数々によって、美しいみずゑの世界をご鑑賞下さい。



小山良修「布上」新潟県立近代美術館蔵



渡部菊二「夏の子」福島県立美術館蔵

主な出品作家

中西利雄、小山良修、富田通雄、小堀進、春日部たすく、渡部菊二、不破章、大下藤次郎、小山周次、石井柏亭、三宅克己、青木繁、萬鉄五郎、古賀春江、岸田劉生、脇田和、丸山挽霞、後藤工志、吉田博、赤城泰舒、南薫造、白瀧幾之助、荒谷直之介、荻野康兒、藤江志津、水野以文、佐藤進、三橋兄弟治、杉原茂右衛門、繁野三郎、名柄正之、西原務、宮嶋羊邨、田代順七、上田栄一、坂本繁二郎、その他

水彩画 約130点、パステル、デッサン約10点



佐藤進「館」北海道立旭川美術館蔵

講演会

8月19日(土)午後2時より

「大正、昭和の水彩画について」 金原宏行(茨城県近代美術館企画課長)

美術映画会

8月20日(日)午後2時より 京都の魅力、美のすべて 1. 洛中 2. 東山

9月15日(日)午後2時より 京都の魅力、美のすべて 3. 洛北 4. 洛西

美術相談

8月27日(日)午後2時より 広畑正剛(洋画) 遠藤原三(洋画)

9月3日(日)午後2時より 佐久間公憲(洋画) 北尾和子(水彩画)

休館日：8月13日(日)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、9月4日(月)、10日(日)、11日(月)、18日(月)、19日(火)

入館料：一般200(160)円/小・中生100(80)円 * ()内は20名以上の団体料金

東京都渋谷区松涛2-14-14 TEL.03-3465-9421 2-14-14, SHOTO, SHIBUYA-KU, TOKYO 渋谷駅下車徒歩15分/神泉駅下車徒歩5分

